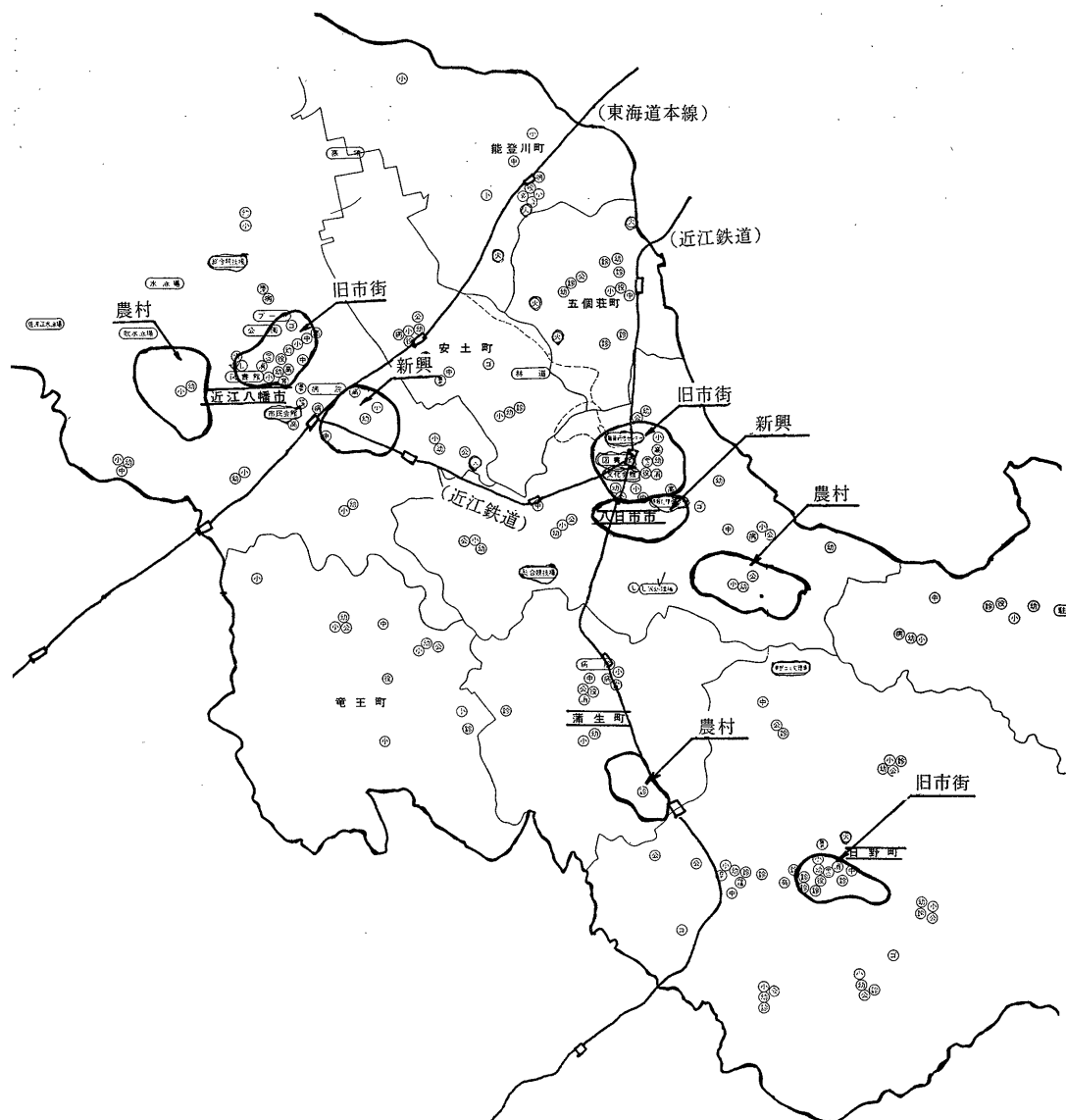


第三章 住民生活と住民意識

第1節 調査の経過と概要



調査対象地域図

〔Ⅰ〕 調 査 の 目 的

第3章の分析データ『湖東地域住民のくらしと意識の調査』は、当研究所が昭和53年度より共同研究として進めてきた「滋賀県中部広域市町村圏の社会学的研究」の一環として実施されたものである。この共同研究のこれまでの経過については『研究所報』でふれられているので割愛するが、今回の調査は昭和53年9月の「合同予備調査」（中部広域市町村圏全体の概況を把握するために、主として自治体などから聴取りを行なった。その調査結果の一部は『研究所報』第2号参照）をふまえて、住民レベルでの生活と意識の実態を把握するために企画された。

今回の調査の目的はこれまでに様々な名称で展開されてきた広域行政と地域住民との関連性の解明であるが、特に強く意識されたのは広域行政施策が住民の生活実態や意識にうまく対応したものになっているか、広域行政が地域自治の担い手である住民の主体形成にいかなる影響をおよぼすかなどの問題であった。また双核構造をもつ広域圏における町づくりの方向性をさぐることも重要な課題として設定された。

〔Ⅱ〕 調査の対象と方法

1 調査地の選定と調査対象

中部広域市町村圏内には近江八幡、八日市、能登川、五個荘、安土、竜王、蒲生、日野、永源寺の2市7町がある。二つの中心市をもつ双核広域圏という圏域構造からくる住民生活の特徴を把握するために、近江八幡・八日市の両市については旧市街地区、新興住宅地区、農村地区の3地点が、また蒲生については農村地区、日野は旧市街地区の合計8調査地区が設定された（調査対象地域図参照）。

したがって、今回の調査対象者は以下の8調査地区の20歳以上の住民である〔別表1〕。

〔別表1〕 調査対象地区一覧

市 町	旧市街地区	新 興 住宅地区	農村地区
近江八幡	間町、仲屋町上、仲屋町中、仲屋町元、大杉町、為心町上、為心町中、為心町元、魚屋町上、魚屋町中、魚屋町元、新町1丁目～4丁目、玉木町1丁目、玉木町2丁目、正神町、小幡町上、小幡町中、本町1丁目～5丁目	上田町、西本郷町、堀上町	賀茂町、牧場町、大房町
八 日 市	本町、八日市町	聖徳町、仲野A・B、ひばり丘、春日町、沖野町A・B・C	上大森、大森、尻無
日 野	大窪A～E		
蒲 生			鋳物師、岡本、上麻生下麻生

〔別表2〕

調 査 サ ン プ ル 抽 出 お よ び 回 収 状 況

	八 日 市 市				日野町 旧市街	蒲生町 農 村	近 江 八 幡 市				計
	旧市街	新 興	農 村				旧市街	新 興	農 村		
対象市町の人口 (1979.9)	—	—	—	37,427	21,502	9,598	—	—	—	59,125	127,652
抽 出 率	1/10	1/12	1/12	—	1/12	1/9	1/8	1/10	1/12	—	—
対 象 サ ン プ ル	100	100	100	300	150	100	150	150	150	450	1000
回収有効サンプル	73	67	82	222	123	79	126	109	117	352	776
有効回収率(%)	73.0	67.0	82.0	74.0	82.0	79.0	84.0	72.7	78.0	78.2	77.6
調査不能サンプル	31	36	24	91	28	21	31	44	36	111	251

〔別表3〕

調査不能サンプル集計

		八 日 市 市				日野町	蒲生町	近 江 八 幡 市				計
		旧市街	新 興	農 村		旧市街	農 村	旧市街	新 興	農 村		
性 別	男	22(71.0)	21(58.3)	9(37.5)	52(57.1)	15(53.6)	10(47.6)	12(38.7)	26(59.1)	21(58.3)	59(53.2)	136(54.2)
	女	9(29.0)	15(41.7)	15(62.5)	39(42.9)	13(46.4)	11(52.4)	19(61.3)	18(40.9)	15(41.7)	52(46.8)	115(45.8)
計		31(100.0)	36(100.0)	24(100.0)	91(100.0)	28(100.0)	21(100.0)	31(100.0)	44(100.0)	36(100.0)	111(100.0)	251(100.0)
年 令	20歳未満	—	1(2.8)	—	1(1.1)	—	—	—	1(2.3)	—	1(.9)	2(.8)
	20～29歳	10(32.3)	8(22.2)	9(37.5)	27(29.7)	7(25.0)	3(14.3)	8(25.8)	9(20.5)	9(25.0)	26(23.4)	63(25.1)
	30～39歳	5(16.1)	14(38.9)	6(25.0)	25(27.5)	4(14.3)	5(23.8)	3(9.7)	12(27.3)	6(16.7)	21(18.9)	55(21.9)
	40～49歳	6(19.4)	4(11.1)	4(16.7)	14(15.4)	4(14.3)	2(9.5)	7(22.6)	10(22.7)	11(30.6)	28(25.2)	48(19.1)
	50～59歳	2(6.5)	5(13.9)	1(4.2)	8(8.8)	3(10.7)	2(9.5)	5(16.1)	7(15.9)	3(8.3)	15(13.5)	28(11.2)
	60～69歳	1(3.2)	1(2.8)	1(4.2)	3(3.3)	7(25.0)	5(23.8)	3(9.7)	3(6.8)	4(11.1)	10(9.0)	25(10.0)
	70歳以上	7(22.6)	3(8.3)	3(12.5)	13(14.3)	3(10.7)	4(19.0)	5(16.1)	2(4.5)	3(8.3)	10(9.0)	30(12.0)
計		31(100.0)	36(100.0)	24(100.0)	91(100.0)	28(100.0)	21(100.0)	31(100.0)	44(100.0)	36(100.0)	111(100.0)	251(100.0)
調査不能理由	該当者なし	5(16.1)	8(22.2)	5(20.8)	18(19.8)	2(7.1)	—	—	8(18.2)	3(8.3)	11(9.9)	31(12.4)
	長期不在	12(38.7)	3(8.3)	1(4.2)	16(17.6)	4(14.3)	3(14.3)	6(19.4)	5(11.4)	2(5.6)	13(11.7)	36(14.3)
	短期不在	3(9.7)	7(19.4)	12(50.0)	22(24.2)	4(14.3)	3(14.3)	3(9.7)	14(31.8)	18(50.0)	35(31.5)	64(25.5)
	拒否	3(9.7)	4(11.1)	2(8.3)	9(9.9)	6(21.4)	4(19.0)	11(35.5)	8(18.2)	3(8.3)	22(19.8)	41(16.3)
	病気・入院中	1(3.2)	—	—	1(1.1)	4(14.3)	3(14.3)	6(19.4)	—	2(5.6)	8(7.2)	16(6.4)
	そ の 他	7(22.6)	14(38.9)	4(16.7)	25(27.5)	8(28.6)	8(38.1)	5(16.1)	9(20.5)	8(22.2)	22(19.8)	63(25.1)
計		31(100.0)	36(100.0)	24(100.0)	91(100.0)	28(100.0)	21(100.0)	31(100.0)	44(100.0)	36(100.0)	111(100.0)	251(100.0)

2 サンプルの選定

対象市町の人口、調査区の大きさ等を考慮して、全調査地区のサンプル数を1,000とし、各調査地区ごとに配分した。サンプルの選定は選挙人名簿を用いて、各調査地区ごとに一定の比率でランダムに抽出した。各調査地区の抽出率、サンプル回収率、調査不能サンプルの状況は〔別表2, 3〕のとうりである。

3 調査方法

調査員が対象者の自宅を訪問し、質問紙による面接調査を実施した。事前に調査地区の全住民に調査の趣旨を説明した回覧板をまわし、対

象者には郵便で訪問日時を連絡した。

調査員には当研究所スタッフ、本学社会科学の大学院生および学生があたった。

4 調査期間

昭和54年9月1日～9月4日

〔Ⅲ〕 調査項目

調査項目については後掲の調査票を参照。

〔Ⅳ〕 集計の方法

カード集計による機械集計（パスキー1,000使用）。
(浜岡政好)